

死亡統計からみる健康課題

■平成 26 年における 65 歳未満の死亡原因

(人)

	死亡総数 (A)	悪性 新生物 (B)	脳血管 疾患 (C)	心疾患 (D)	糖尿病 (E)	肝疾患 (F)	不慮の 事故 (G)	自殺 (H)	その他 (I)
		割合 (B/A)	割合 (C/A)	割合 (D/A)	割合 (E/A)	割合 (F/A)	割合 (G/A)	割合 (H/A)	割合 (I/A)
全年代死亡	980	276	99	127	13	8	37	15	405
		28.2%	10.1%	13.0%	1.3%	0.8%	3.8%	1.5%	41.3%
65歳未満 死亡総数	88	33	5	9	3	1	10	8	19
		37.5%	5.7%	10.2%	3.4%	1.1%	11.4%	9.1%	21.6%
男	57	16	3	8	1	1	10	5	13
		28.1%	5.3%	14.0%	1.8%	1.8%	17.5%	8.8%	22.8%
女	31	17	2	1	2	-	-	3	6
		54.8%	6.5%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%	9.7%	19.4%

「恵那の公衆衛生(2015)」データより算出

■ 65 歳未満 部位別悪性新生物死亡数

(人)

	総数 (A)	食道 (B)	胃 (C)	大腸 (D)	肝・ 肝内胆 管(E)	膵 (F)	気管、 気管支 及び肺(G)	前立腺 (H)	乳房 (I)	子宮 (J)	卵巣 (K)	白血病 (L)	その他 (M)
		割合 (B/A)	割合 (C/A)	割合 (D/A)	割合 (E/A)	割合 (F/A)	割合 (G/A)	割合 (H/A)	割合 (I/A)	割合 (J/B)	割合 (K/B)	割合 (L/B)	割合 (M/B)
総数	33	0	3	4	1	5	4	0	3	3	1	2	7
		0.0%	9.1%	12.1%	3.0%	15.2%	12.1%	0.0%	9.1%	9.1%	3.0%	6.1%	21.2%
男	16	0	2	3	1	3	4	0	0	-	-	1	2
		0.0%	12.5%	18.8%	6.3%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%	-	-	6.3%	12.5%
女	17	0	1	1	0	2	0	-	3	3	1	1	5
		0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	11.8%	0.0%	-	17.6%	17.6%	5.9%	5.9%	29.4%

「恵那の公衆衛生(2015)」データより算出

65 歳未満の死亡は 88 人で全死亡総数の 9.0% を占め、男性では 57 人 (11.2%) が 65 歳未満で死亡している。

死亡原因の内訳をみると、37.5% が悪性新生物で死亡している。

悪性新生物の部位別死亡割合では男性では気管、気管支及び肺が 25.0% と高く、次いで大腸と膵臓が 18.8% と高くなっている。また、女性では乳房、子宮の割合が 17.6% と高い。

他の死因では男性の心疾患での死亡が 14.0%、男女とも自殺が 9% 前後を占めており課題となっている。

働き盛りの年代での死亡は、経済的損失が大きく社会保障費の増大にもつながるため、壮年期の健康づくりを医療保険者・事業所等と連携して、健康づくり推進の環境を整備していく必要がある。

ご意見を伺いたいこと

- ・働き盛りの年代の心と身体の健康づくりを、それぞれの立場でどのように支援していただけるか